

## 5 今回の災害の特徴

今回の地震は、都市直下型地震で懸念されていた様々な被害形態を現実のものとして我々の前に突き付けた。

その特徴を被害の連鎖図として示すと図5.1のようになる。今回の地震では、

- ・津波の発生がなかったため、一次災害として多くの護岸構造物被害があったものの、二次災害としての水害がなかった
- ・一次災害において危険物施設の重大な被害がなかったため、二次災害としてのガス（有毒、可燃）の拡散がなかった

ことがあるが、

- ・家屋の倒壊とともに火災が発生し、地下埋設物の破壊と道路の機能喪失に伴う消防、救助能力の低下によって延焼し、大きな被害となった
- ・情報伝達機能の低下により関係機関の現状把握が的確になされず、対応が後手となった
- ・道路、鉄道の破壊による全国規模の交通、流通機能の低下
- ・長期にわたる経済活動の低下

など典型的な都市型大災害の事象を示している。

今回の地震被害に学ぶべきことは多いが、構造物の耐震設計などのハードの面の見直しだけでなく、図に示されたような経過事象を最小限に止めるためのハード、ソフト両面からの検討を関係者が一丸となって進めて行くことが重要である。

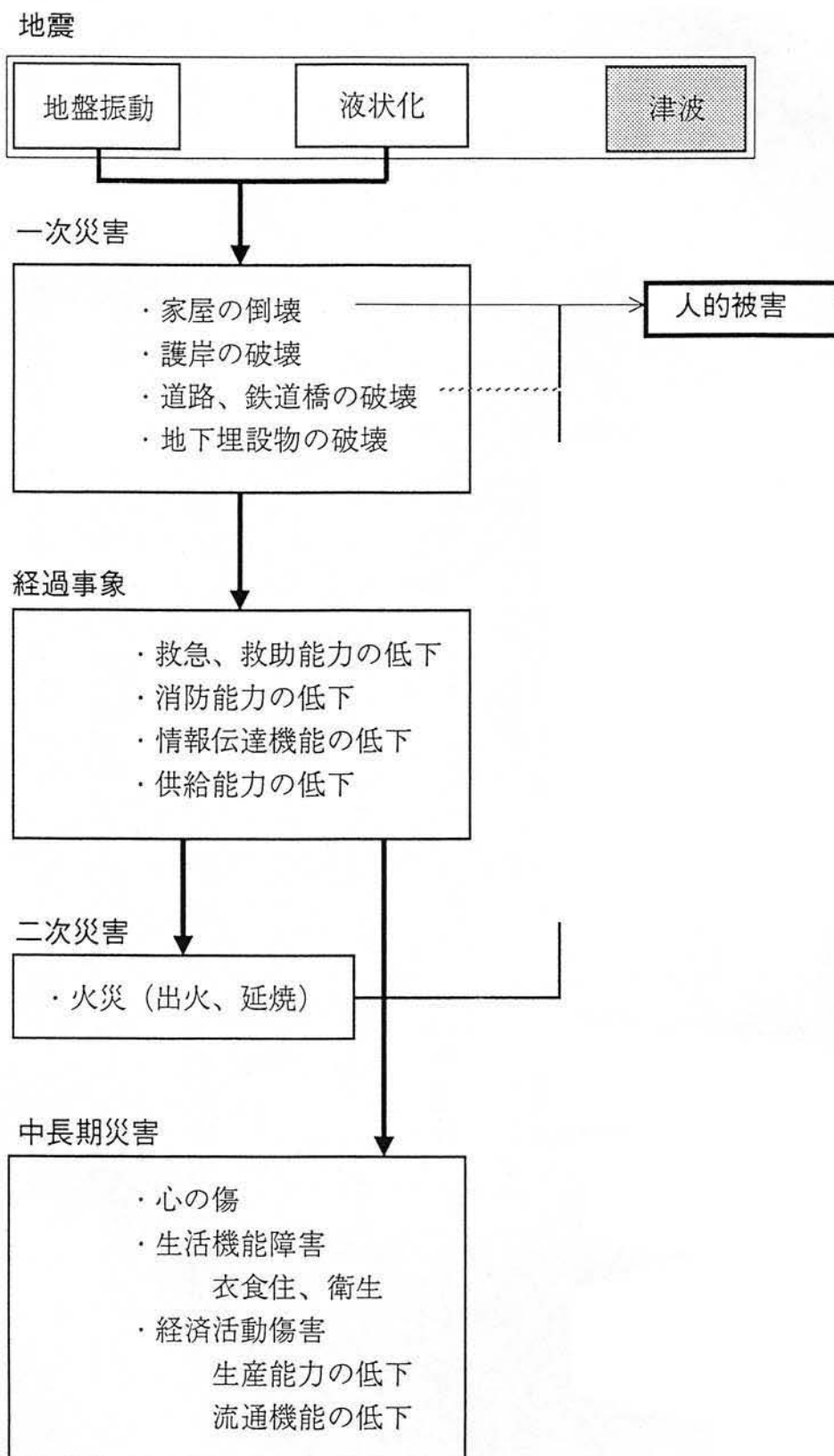


図5.1 今回の地震による被害の連鎖図